

# 湘北

## 20年のあゆみ



公民館まつり バザー



配食活動 発足式

湘北地区社会福祉協議会

## 発刊にあたって



湘北地区社会福祉協議会  
会長 青木 有俱

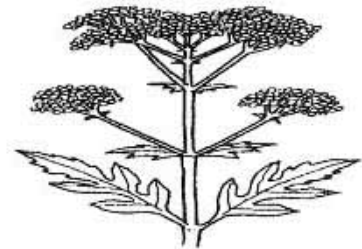
湘北地区社会福祉協議会創立 20 周年記念誌発行に際し、一言ご挨拶申し上げます。

湘北地区社協は、1986 年 7 月に市内で 11 番目の地区社協として発足致しました。その後 20 年、諸先輩や地域の皆様の多大なご努力とご協力で、市内でも先進的でかつ特徴ある活動を行う地区社協へと成長して参りました。例えば、給食宅配への率先した取り組み、鶴が台小学校の空き教室を活用した福祉活動の「多目的室」の実現、市内で二番目のボランティアセンター立ち上げなどがあります。

一方の特徴ある活動とは、自治会地域単位で進められている活動です。湘北地区住宅の形態や規模・歴史など地域ごとに大きな違いがあるため、それぞれの地域に相応しい、また、身近な場所での福祉活動を展開させたいと思います。

市の地域福祉計画や市社協の地域福祉活動計画に見るように、福祉面で地域の活動がこれからますます重要になってきています。これからの地域福祉の具体的な姿は必ずしも明確になっていません。しかし、そうだからこそ、湘北に相応しい地域福祉活動の方向を見いだし、市や市社協に提言する位の気構えで望みたいと思います。

これまでの成果の上に立って、湘北における今後の地域福祉の新たな展開への夢を描きつつ、本記念誌の発行の挨拶と致します



(ふじばかま)

## 20周年に寄せて



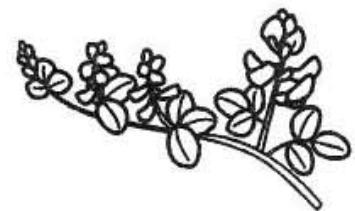
社会福祉法人  
茅ヶ崎市社会福祉協議会  
会長 石井 昭

この度湘北地区社会福祉協議会が創立20周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴地区社協は昭和61年7月発足されて以来、地区の福祉増進を図ることを目的とし、その達成のために、先駆的に諸活動に取り組んでこられました。平成3年度には在宅老人等給食サービス事業のモデル地区となり、食生活の充実、孤独感の解消、安否確認等を図るためにご尽力いただきました。平成15年度にはボランティア地域介護支援事業のモデル地区として、地区ボランティアセンターを立ち上げ、制度の狭間で支援が必要な方を支えていただいております。地区社協内に自治会単位の地域社協を設置されミニディ・サロン活動をはじめとした小地域活動も活発に行われています。あらためて地区社協の皆様のご功績に対し深く感謝すると共に敬意を表するものでございます。

近年の福祉環境の著しい変化と多様化する福祉ニーズの中で、地域福祉に期待される役割・機能も高度化しています。市社協では第3次地域活動計画を策定し、住民・行政・関係機関と協働で福祉のまちづくりを進めていきます。ここで地区社協の果たす役割はますます重要になると考えております。

終わりに今後も地区社協のより一層のご尽力をお願いするとともに、ますますの発展と活躍を心より祈念申し上げまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



(はぎ)

## 20周年記念誌発刊に寄せて



茅ヶ崎市地区社会福祉協議会  
連絡協議会 会長 大矢 修

湘北地区社会福祉協議会がこの度20周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

社会福祉基盤構造改革の流れの中で、地域福祉がより注目される時代となりました。茅ヶ崎市においても行政の地域福祉計画、市社協の第3次地域福祉活動計画が策定され、その指針が示されました。その中で小地域での福祉活動を推進する担い手の中心として地区社会福祉協議会がより期待されております。

貴地区社協では在宅老人等給食サービス事業やボランティア地域介護支援事業をモデル地区として先駆的に実施し、ミニディ・サロン活動も積極的に推進し、地区の福祉増進を進めてこられました。あらためて、貴地区社協の皆様のご功績に対し深く感謝するとともに敬意を表するものでございます。

連絡協議会では、地域住民の福祉向上のため地区社協相互の連携を取り研鑽しております。貴地区社協におかれましては、先駆的に進められた活動の成果を他地区にご教授いただき、より一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴地区社協のますますのご発展とご活躍を心より祈念申し上げます。記念誌発行にあたってお祝いのご挨拶とさせていただきます。

(福祉マーク)



## 二十周年を祝して



茅ヶ崎市長 服部 信明

湘北地区社会福祉協議会が発足二十周年を迎えられたことは、誠に喜ばしいことと心からお祝い申し上げます。

昭和50年代に、地域の住民がよりよい生活をおくれるよう地域住民の協力・自主的な活動が求められ、各地では順次地区社会福祉協議会が設立されてまいりました。このような中で湘北地区社会福祉協議会は、昭和61年7月に発足され、以来、20年間地域に根ざした宅配サービスのモデル地区としての先駆的な取り組み、小学校の教室を活用した多目的室の開設や地区ボランティアセンターの設立等、様々な活動や事業展開をとおして住みよい地域づくりのため、多大なるご尽力をされておられますことに、厚く敬意を表するものでございます。

今日、本格的な少子・高齢社会を迎え、平成18年4月からは介護保険制度の改正や障害者自立支援法が施行されるなど新しい福祉サービス制度に変わってきておりますが、このような中では、地域の多様な福祉ニーズを受け止め、その課題解決を図るための支援体制の構築や地域を支えるボランティア、コーディネータ等の人材育成と活動が、ますます重要になってまいります。このため今後も地区社会福祉協議会への期待はますます大きくなっていくと思います。湘北地区社会福祉協議会におかれましては、今後も引き続き地域住民の地域福祉の発展のため、より一層のご尽力をお願いいたすとともに、ますますのご発展と関係各位のご健勝を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

(福祉マーク)



## 湘北 20年のあゆみ 目次

			ページ
発刊にあたって	湘北地区社会福祉協議会 会長	青木 有俱	1
お祝いのことば	茅ヶ崎市社会福祉協議会 会長	石井 昭	2
	茅ヶ崎市地区社会福祉協議会 連絡協議会長	大矢 修	3
	茅ヶ崎市長	服部 信明	4
目次			5
歴代会長の寄稿	第2代会長 浜村 高登		6
	第4代会長 石川ヨスエ		7
	第6代会長 森 潔		8
活動の足跡	発足のいきさつ		9
	配食活動		10
	鶴が台小学校 多目的室開設		11
	15周年記念式典を挙行		12
	湘北地区ボランティアセンターの開設		13
	記念寄稿…香川の移り変わり…熊沢 藤俊		14
年間事業の紹介	公民館まつり参加		16
	健康講座		17
	視察研修活動		18
	ボランティアセンターの活動		19
	ボランティアセンター案内図		20
	あなたの周りにこんな活動が		
	・香川地域		21
	・甘沼地域		22
	・鶴が台団地		23
	・松風台地域		24
	・鶴が台一街区		25
歴代役員と20年のあゆみ			26
資料	・湘北地区社会福祉協議会 会則・理事会運営規定		32
	・新聞「湘北」創刊号		35
	・私たちの湘北地区		37
	・湘北地区 地域の概要		38
	・地域の福祉活動紹介		39
編集後記(編集委員)			40

## 歴代会長の寄稿



### コーディネーター役で豊かな地域社会に

昭和63年度 浜村 高登

湘北地区社会福祉協議会20周年おめでとうございます。

高齢社会は、今後更に進み、一人暮らしや高齢者のみの世帯の割合は多くなっていきます。こうした状況において地区社協は、今後も欠くことができません。茅ヶ崎市内には、高齢者、障害者らを支援する様々なボランティア団体が活動しています。そして市社協は、毎年ボランティアを希望する人たちを対象に養成講座を開催。そして新しいボランティアが生まれ、活動を始めています。こうした継続は、地域の人々が福祉を支える基盤になると思います地区社協がもっと果たすべき役割は『今も、これからも』ボランティアとその支援を必要とする“パイプ役”となることではないでしょうか。つまりボランティアの支援が必要な人々に、支援をつうじて孤立しないで、豊かな暮らしができるように、コーディネートしていくことだと私は考えています。今後の活動の充実とご発展を祈念します。

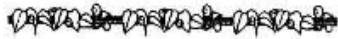


(福祉マーク)



(社協は、今もこれからもパイプ役に)

## 歴代会長の寄稿



## 湘北地区社協とともに歩んで

### 第4代会長 石川 ヨスエ

梅雨もやっと終わり暑い日が続いておりますが、皆さんお元気でいらっしゃいますか？「湘北地区社会福祉協議会」とは何か、どんな事をなすべきかの勉強を始めましたが、まず皆さんに『社協』を知っていただく為に香川公民館まつりに“おでん”を安く売ってアピール致しました。大変でしたが、仕入れには業者の協力もありましておかげ様で良く売れました。

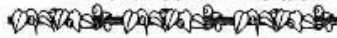
あの頃はまだ60才でしたので、それなりに何でもできましたが、この頃は全く皆さんのお世話になるばかりです。誰でもとおる道とは知っていましたが、こんなに早く恐ろしい老後がやって来るとは想ってもみませんでした。話は変わりますが、平成4年8月19日に本組織の長谷川会長の突然のご他界には吃驚いたしました。長谷川会長は、非常に福祉関係、特に老人問題に力を入れられ《宅配給食サービス事業》はモデル地区として発足致しました。その他、独居老人の料理教室、託老事業と色々なさいました。私は、長谷川会長がご逝去なされました残任期間を未熟者でしたが、代行として務めさせていただきました。その間、協力員さんや、ボランティアの方は本当に良くやって下さいました。唯ただ感謝しております。大変な事もございましたが、いろいろと勉強させて頂きましたので、今では何とか主人の介護をしながら一日一日を過ごしております。



(福祉マーク)



## 歴代会長の寄稿



### 新たな福祉課題への対応

#### 第6代会長 森 潔

会長に就任した平成9年から16年度は高齢化が急速に進み、福祉制度も平成12年に介護保険制度が施行され、社会福祉基礎制度も慈善型福祉から生活自立支援型福祉に転換されるなど福祉環境が大きく変わった時期であった。これらの制度変化による新しい福祉課題にどう対応し、どう変容しするかが問われる中で湘北地区社会福祉協議会は新たな対応策をみんなで考え、その活動を定着させてきた思い出が一番印象に残っている。

新たな福祉対応には、地域の福祉ニーズに即応しやすい自治会単位の「地域社協」活動を取り上げ、また湘北地区の「ボランティアセンター」を設立し、ボランティアによる高齢者の生活支援活動も積極的に展開した。

平成12年度からはじめた地域社協活動も各地域で活発に事業が展開され平成15年に事業開始したボランティアセンター活動も年々利用件数が多くなり、高齢者に喜ばれていることは、大変嬉しいことである。

終わりに、湘北地区社会福祉協議会の創立20周年を祝し、さらなるご発展ご活躍を祈念したい。



(福祉マーク)



(介護のお世話にならないよう)

# 活動の足跡

## 発足のいきさつ

昭和60年11月湘北地区地域づくり運営委員会は「湘北地区社会福祉協議会」の設立に向けて、準備委員会を設け本格的な行動に入りました。準備委員には地域づくり運営委員の他、各地区の有識者にも参加を願い、会則・役員構成等について検討し、61年3月の地域づくり運営委員会にその結果を答申し、運営委員会はこれを受けて理事・評議委員等役員の選任に入り、第2回運営委員会では、理事候補者の出席を求めて役員の選出を行い、設立総会の進め方について協議が行われた。直ちに総会の準備に入り設立総会を7月と定めて諸般の準備が進められた。

昭和61年7月13日鶴が台団地集会所において「湘北地区社会福祉協議会」の設立総会が行われ、正式発足する運びとなった。設立時の会長には香川の熊澤幸一氏を、副会長は甘沼の沼上伊次郎氏、鶴が台一街区の斉藤実氏、鶴が台団地の青木有俱氏、松風台の長谷川清久氏が就任し、他に理事6名、評議員27名、監査2名、書記2名、会計1名の総勢43名の役員体制で出発した。

基本目標に「老人福祉」を掲げて具体的な活動の数々を積み上げ今日に至っている。

(伊東 治尊)



(福祉マーク)



(老人福祉対策で社協スタート)

# 活動の足跡

## 配食活動の思い出

平成元年核家族化、女性の社会進出と世情の変化に在宅福祉策、認知症者を預かる託老活動を始め、地域のご理解と協力の気運に。食事作り困難者に市のモデル「宅配給食」を公民館を拠点として、週2回・35食で平成3年7月に開始、平成13年10月週4回、約100食に拡大した宅配は民間業者に移行し終了。

風雨炎天凍る道に自転車で容器配達・回収の困難も『ありがとう、美味しかった』の笑顔に全てを忘れ。安否の確認を見守り続け10年の方も協力員でした。不在だったのは通院と再訪問でわかり喜ぶ。無届け長時間不在者宅に立会人と部屋中探す、その後帰宅され安堵に気抜けした日。坂の上草深い通路の除草を続けた人、呼び声はトイレで後始末、誕生・退院を祝い、墓前に冥福を祈るなど。

手作りや民芸品を利用者より頂き、配送車待ち時に情報交換は厚意で場所提供の香川公民館内で、宅配の絆が誠意の行為、個々多彩な交流もありました。時折玄関や物置周りの草取りに早出も思い出に。天候を気遣いながら、また無事故も願い、食数当番容器の確認受け渡し、利用申請食券管理、会計等と市社協に出向いたこと、館内の賞状に往時や安否を偲び各位の様々な支えと感謝し、健康で拠点責務充実感の10年と生涯の良き想いが残ります。

ボランティアに動き健康管理は食事作り?と動く昨今です。 (鈴木アサ子)



(福祉マーク)

配食協力員火曜日当番・最後の奉仕平成13年9月

# 活動の足跡

## ボランティアの活動拠点 台小多目的室の開設

湘北地区は、福祉への理解者が多く、福祉ボランティアの活動も盛んな所である。地区社協もこれらの多くの方々の善意に応え、ボランティアの活動環境を整え、ボランティア支援の活動を活発に展開している。

平成10年当時は、福祉ボランティア活動の使用拠点は香川公民館が主で活動拠点の確保には大変苦勞していた。そこで地区社協を中心にボランティア団体と協議を重ね、福祉活動の専用拠点の確保に動いた。当初の構想は公民館近くの学習塾跡の建屋を借り受け、福祉の活動拠点としての「福祉センター」の設立を考え、その設立支援を行政、市社協に願い出る一方、設立活動を展開した。

平成10年10月に開催された市民集会で本件を取り上げたところ、市長から公的施設を使うべきとの発言で急遽、鶴が台小学校の空き教室の転用が決まった。空き教室の地域団体の利用については自治会連合会、地区社協並びに教育委員会、小学校、PTAの5者会議で基本的な課題、運営方式等が審議された。学校施設を使うことで名称は「多目的室」になり2教室の利用が認可された。多目的室の利用は学校教育への影響を考慮し、地域福祉、青少年育成の関連団体に限定した。また、多目的室は内装を改修、床はコルク貼りになり、冷暖房設備、炊事施設、身障者用トイレを新設、机・椅子・備品類も新調された。

平成11年11月21日、多目的室の使用を開始した。以来関係者のご努力で事故も無く地域の皆さんに喜ばれ、頻度高く使われていることは嬉しい限りである。教育委員会及び小学校当局のご厚意に深謝している。終わりに平成16年10月学童保育室が開設され、3多目的室になったことも付記しておきたい。

(森 潔)



子育て支援「きらきらぼし」の活動風景



(すすき)

# 活動の足跡

## 15周年記念式典挙行

湘北地区社会福祉協議会は昭和61年7月13日茅ヶ崎市の11番目の地区社協として創立された。(現在は12地区社協)。創立記念式典として初めて実施したのは15周年記念である。平成11年度の予算作成のおり、肥大した繰越金の有効活用が審議され、15周年記念式典の実施が決定された11年度の総会承認後記念行事の準備を開始した。

平成13年7月7日11時より香川公民館を会場に、創立15周年記念行事を開催した。記念式典には茅ヶ崎市長、市の福祉関係部課長、市社協会長、各地区の社協会長、地元の自治会長、福祉関係の代表者など多数の方々のご臨席を賜り、来賓の方々の丁重な祝辞や激励の言葉を頂戴し、感激と感動を覚える式典が厳粛に挙行された。引き続き立食パーティを開宴、ご臨席の皆様方を接待し、懇親を深めた。午後の部は13時30分に開演、参加者には全員に記念品を贈り、15周年記念をみんなで祝い、楽しむ催しにした。第一部は健康づくり講演会「生活習慣を見直してみませんか?」を開催、第二部は認知症の祖母と生活を伴にする姉妹の笑いと涙の映画「スキヤキ」を楽しんだ。15周年記念行事の開催には、来賓の方々や地区の皆様からの暖かいご支援、ご協力を賜り、また多くのご祝儀や簡保健康増進事業団からも多額の支援金を頂戴し、感謝している。

15周年記念行事を実行して実感したことは大きな行事をやり終えた喜びと感激はお互いに連帯感と自信を深め、明日への大きな活力源になったと感じたこと、今一つは先人・諸先輩が熱い想いで築き、育てられた地区社協の歴史を学び、深い感動を覚えると同時に、これを継承し、更に発展させてゆく責務の重さをあらためて痛感した。

( 森 潔 )



## 活動の足跡

### 小さく産んで大きく育てる 湘北地区ボランティアセンター設立

平成14年、市社協は国の「ボランティア地域介護支援事業」の一環として地域ボランティアを育成するため、四つの地域で介護予防講座Ⅱを開催し翌年「地区ボランティアセンター」設立に向け、浜須賀と湘北をモデル地区としました。地区総会後の6月に市説明会が行われ、それを受け実行委員会（各地域委員と市社協職員の計12名、4回開催）を作り、既に活動している鶴が台、松風台、サポート浜須賀を参考に検討を重ねました。

準備から設立まで2ヶ月！超短期間にスタートできたのは実行委員の方々の熱意と力。しっかりとした土台となった森会長の設立素案・運営規定。現・元・民生委員・実務経験者の小委員会メンバー（後のセンターコーディネーター）による「生活支援ボランティア活動マニュアル」など。良きスタッフ・チームワークに恵まれたからに外なりません。

15年9月、アパートの一室を借り「湘北地区ボランティアセンター」がスタート。安心して暮らせる地域を目指し、住民同士助け合う活動。家事支援・小修理・草取り・低木の剪定などを行い、翌年、高齢者の孤独感を和らげ、安心して生活が送れるようにと「敬愛（話し相手）訪問」も始まりました。3ヶ月毎に『センター通信』を発行、各自治会の協力で住民に回覧され、利用者も増えました。これからさらにきめ細かく相談、地域課題に応えられるようみんなで活動していきたいと考えます。  
(南雲 恵子)

浜須賀・湘北・松浪三地区交流会



## 記念寄稿

## 香川の移り変わり

元湘北地区自治会連合会 会長 熊澤 藤俊

地区社協創立20周年おめでとうございます。

今発展しつつある湘北地区の一端を担っている香川について少し触れてみたいと思います。

現在香川の人口は、11,814人、世帯数は4,346戸この人口の増加は昭和43年相模原地区の土地買収に始まり、さらに昭和24年の農地改革と農耕者の減少から農地を手放すのも多く、昭和35、6年代より1年間で100戸以上の住宅建築が見られ、現在に至っております。因に香川の昭和初期の戸数を見ると、98戸であり、それ以後 10数年は1戸も増えていない状況でした。その後終戦まで多少の増加は認められるものの前から住んでいる世帯の戸数は現在の戸数に比べ、5%以下にすぎず、他の90%以上は他の市町村よりの移住で、茅ヶ崎市の他の地区に比べ驚くべき現象であると思います。

もう一つ、人口増加の原因は、相模鉄道の開通と香川駅舎の建設があったと思われる。相模鉄道は元々西寒川の相模川から取れる砂利を採取し、貨車による運搬のために企画されたもので、大正4年用地の買収が始まり、以後建設が進められたのであります。

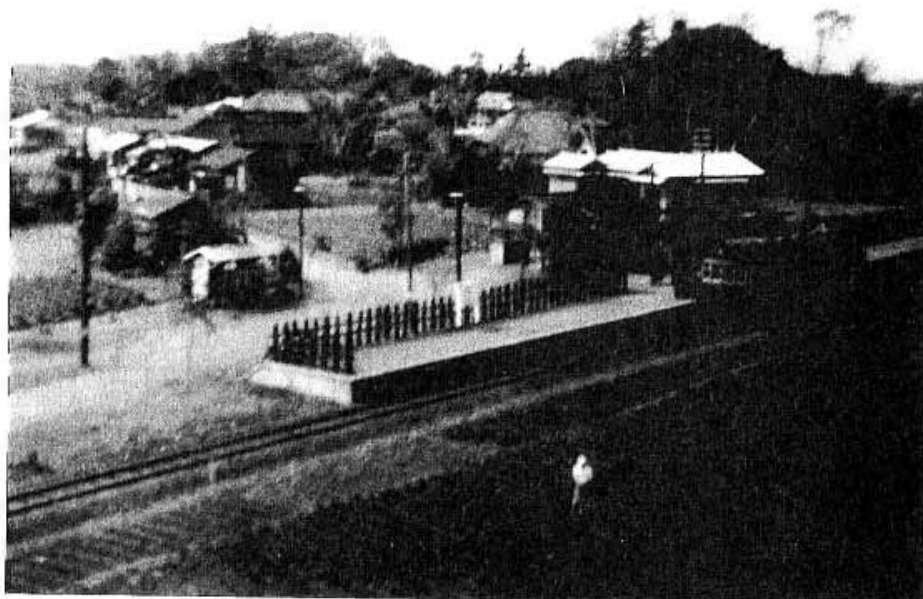
大正11年茅ヶ崎・寒川間が開通し、蒸気機関車により砂利の運搬と1時間1本ほどの旅客営業も開始されたが、乗客は1日に120人程度でとても採算の取れるものではなかったようです。そのためか香川の住民の切なる願いである駅舎の建設は、再三の交渉にも拘わらず延期され、大正15年になって承認され建設が開始されたのであります。落成式は11月21日でありましたが香川住民はこの日に向け、駅舎回りへの植樹及び駅に至る道路、寺尾方面、大曲方面、甘沼方面の3本の造成を住民総出で行ったように聞いています。乗客車両も蒸気機関車からガソリンカー、ディーゼルカーと変わり昭和54年駅舎の改築とホーム上屋の設置、さらに平成3年3月に電化され、現在の乗客数は、1日7,000人を超えると聞かされ驚くと同時に、香川駅の存在は、香川の発展に深く寄与していること、更に近隣社会とのつながりを強く持っていることを感じます。

昭和初期の香川の村について見ると、その当時は、北より篠谷、北町（きたつちょう）、堂庭、間門、殿内、中尾、原と7つの集落に分かれ、それぞれの生活を営んでおりました。おもしろいことに、この98戸にはそれぞれ屋号が付けられ、その家が何処にあり、家族構成がどうなっているか、住民の殆どの人が知ってい

たということでもあります。また当時は店は殆どなかったのですが、堂庭（現クラウン周辺）は戸数も多く、南側に煙草や駄菓子を売る店があり、子供や村の若者の集まる場所でもありました。更にその隣には松葉屋という料亭があり、奥座敷や2階建の客室も多くあり、茅ヶ崎方面からの来客も多かったようで、香川の中心の地でありました。

昭和35年より、北陵高校への道路の整備や香川小学校の開校、チサン団地の造成などがあり45年後半には駅前商店街の出現、香川保育園、その西側に富士見幼稚園、また中通に郵便局が開局されるなど、更に多くの住居の建築などで香川の変貌には、目を見はるものがありました。

今、香川の今後を考えて見ると現在行われている北部開発などもあり、湘北地区の中心としての役割が大きく期待されるのではないかと思います。



昭和27年頃の香川駅と周辺（写真提供 熊澤藤俊氏）

（福祉マーク）





# 年間事業の紹介

## 公民館まつり参加

### 【福祉バザー】

活動の拠点である公民館も、今年18年目を迎えました。公民館でたくさんのイベントが企画され活動も活発ですが中でも、公民館まつりは一年で最大のビッグイベントでしょう。そして社協のピーアールをと参加が始まった福祉バザーも今では「社協のお店」として大変な盛況ぶりです。

開館当時からの『綿菓子』、『味噌おでん』は社協の専売特許みたなものです。最近ではウーロン茶、水飴せんべい（水飴とミルク・せんべいをはさんだもの）、水飴のパック詰め（350g）と手広く販売しています。人気の味噌おでんに“柚味噌おでん”が加わって一段とパワーアップしています。

もちろん準備から雨降りのテントまでメンバーは大変忙しい思いをしていますが、お客さんが喜んで買って頂くと疲れも吹っ飛びます。

なお、売上金は、地域福祉の為に使われます。社協では公民館と協力し、ますます活動の輪を広げていけたらと思っています

（長谷川 泉太郎・小川 高男）



## 年間事業の紹介

## ためになる健康講座

実行委員会のグループワークとして健康講座（年2回）が有り、理事・評議員で構成されています。

17年度のテーマは前年度のアンケートを中心に考え、歳をとると出てくる病気や悩みで“歯と目”に決めました。

1). 『口腔ケアで疾病予防、お口をきれいに健康生活』を表題として、講師小倉洋一郎先生（茅ヶ崎新北陵病院歯科医師）。口の中から出る唾液は免疫力があり歯には非常に大切なものです。虫歯や歯周病を予防するために歯磨きをしますが、磨いていると磨けているのは違うのです。口の中の食べかすこれが歯の表面についた細菌集団です。歯ブラシでプラークコントロールしましょう。虫歯や歯周病の原因を取り除き、食べたらず磨く習慣を付けましょう。

2). 『加齢とともに出てくる目の病気、兆候がある病気、ない病気』と題し、講師に重藤真理子先生（茅ヶ崎中央病院眼科医師）。目の症状からの話、目ヤニが出る、目が赤い、目がゴロゴロするなど歳をとると色々なところに害が出る。濁りが出て透明感が無くなってくる。目の症状には、単なる老化、目特有の病気、体の一部の3に分けられる。透明体が濁ると白内障になる。手術でレンズを入れ替えると治るなど、スライドやダミーを使って優しく、丁寧に話されました。質疑応答では歯、目ともに悩んでいる人が多く、時間が足りませんでした。高齢になるといろいろな病気の症状が出るので定期検診を受け、早めに治しましょう。後は自己管理をすることで歯、目を大切にしましょう。



(佐久間 務)

## 年間事業の紹介

### 視察研修活動

平成16年2月24日大和市社協の福田南地区社会福祉協議会にあります“まごころ地域福祉センター”を見学しました。内容は現在の湘北ボランティアセンターと同様に地域のニーズの蓄積を受けて発足したもので、活動は低木の剪定、草取り、家具の移動、話し相手、縫い物、付き添いや介助などがあり民生委員や福祉関係の相談窓口からの依頼に対応しておられました。

平成17年2月5日相模原市の南部に位置する大野南地区社会福祉協議会を訪問し、見守りシステムの話などを伺って来ました。大野南地区見守りシステムは“大野ほほえみネット”という名称ですが、阪神淡路大震災で、高齢者の死者が多かったので色々話し合い何年もかけて検討し、約1年前からスタートしたそうです。“ほほえみネット”の内容は民生委員が中心となり自治会、ボランティア団体が協力します。対象者は老人、障害者などですが“ほほえみネット”を希望され登録された方は、その方の近所の協力者が2～3名いて主に外観上の見守りをするそうです。

平成17年11月29日藤沢市鶴沼市民センター“湘南なぎさ荘”で鶴沼地区協議会との交流。場所を変え藤沢市老人福祉センター“こぶし荘”でサービスセンターと生きがい福祉センター分室を併設したバリアフリーの複合施設を見学しました。事業・予算・内容共にスケールの違い、福祉行政の違いが際だった見学研修でした。

(長谷川 泉太郎)

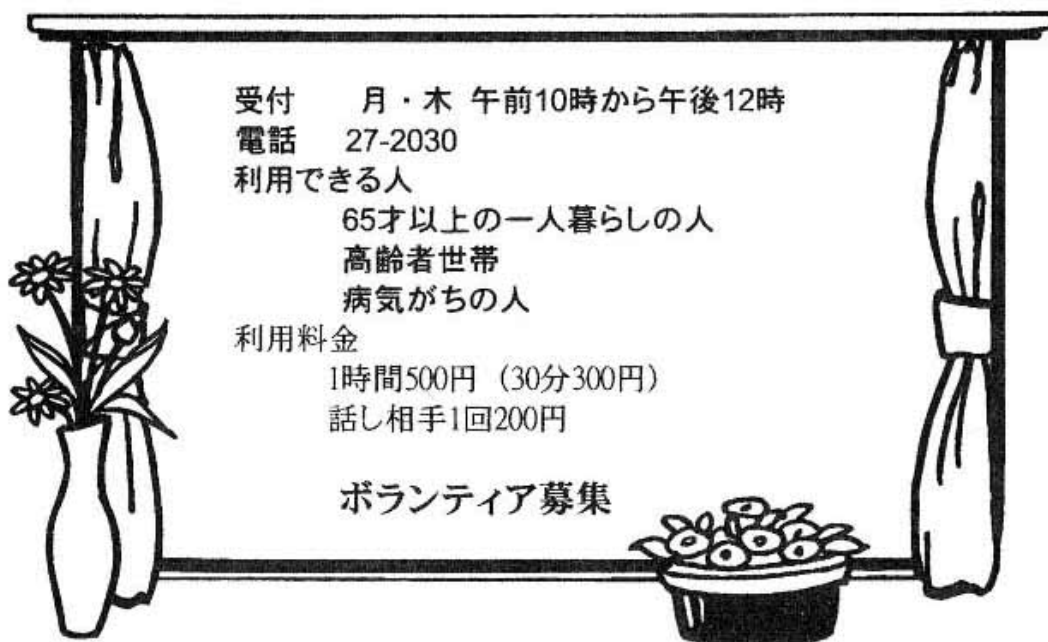


## 年間事業の紹介

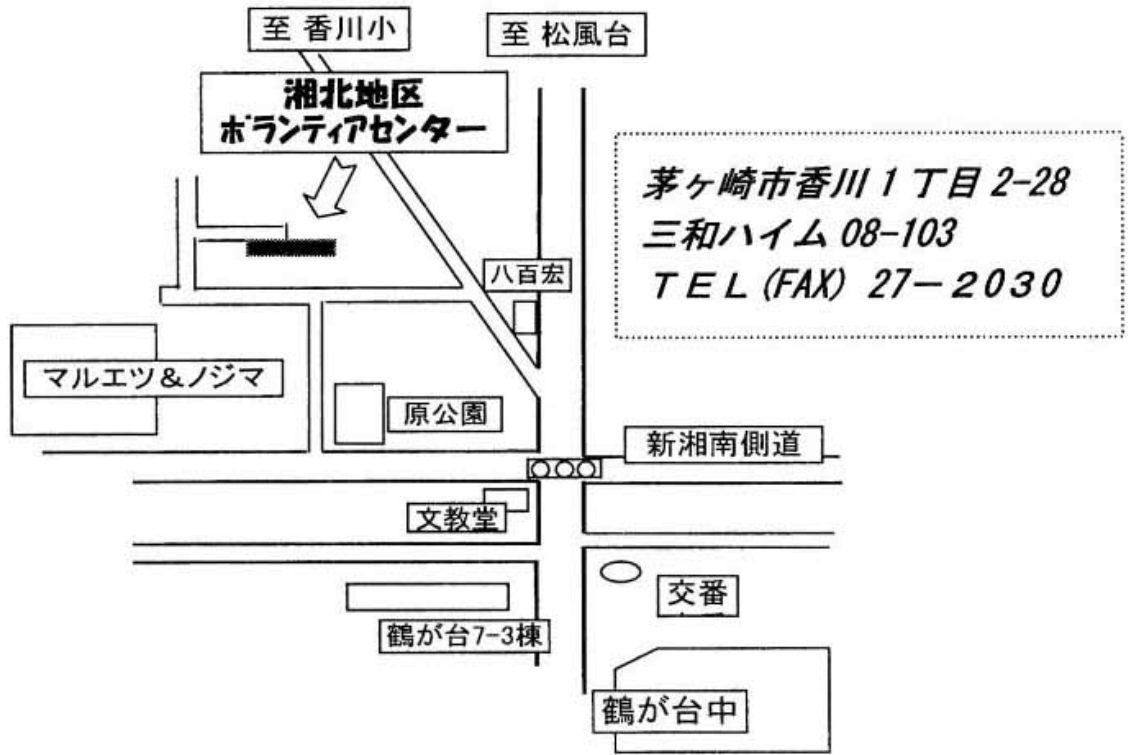
## ボランティアセンターの活動

2003年9月「安心して暮らせる地域をめざし、住民同士で助け合う」活動の拠点として、湘北地区ボランティアセンターがオープンしました。早いもので9月から4年目に入ります。オープンからみんなで一つ一つ話し合い確認しながらの活動と、「私で役に立つなら」とサポーター登録をして頂いた地域の方の協力でセンターの支援活動は続いてきました。今年は広報活動にも力を入れ『ボランティアセンター通信』を発行しました。各自治会の協力を頂き回覧した成果も見え、昨年より依頼件数が増えてきています。全戸配布したセンターの『しおり』を見て毎年依頼のある方、ケガをしたとき病院で教えられて電話された方、民生委員の方に紹介されると…利用される方はさまざまですが「住み慣れた場所で、できない事はちょっと手を借りて」暮らしていくお手伝いをセンターは続けて行きたいと願っています。最近では相談の電話もあります。どこに聞いて良いのかわからない時、行政や関係施設への連絡など、センター以外の相談でも一人で悩まずお電話下さい。

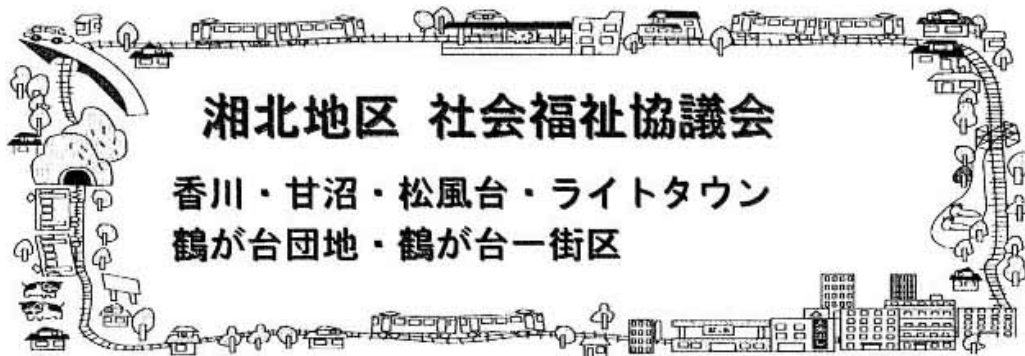
(磯野 瑠璃子)



ボランティアセンター案内図



♪♪ ボランティアも募集しています ♪♪



## あなたの周りにこんな活動が



(香川地域)

### 香川おたのしみ会

70才以上の一人住まいの方お気軽にどうぞ

湘北地区社会福祉協議会の活動の一環として行われていた“託老の集い”を地区毎に実施することになり、香川では平成5年6月7日を始めに、平成6年度は5月11月、平成7年3月の4回が実施され、名称も「香川おたのしみ会」として今日に至っている。

参加者は、地区内に居住する70才以上の独居老人となっているが、発足時の経緯もあって例外的な資格者の参加を受け入れてきた。

平成10年からは、開催日を2月、4月、6月、8月、10月、12月の年6回として実施している。

会の運営費は、ボランティア（民生委員及びそのOBなど）を含め、当初は参加者一人300円でしたが平成10年から400円を会費として負担をお願いしている湘北地区社会福祉協議会からは当初5万円位、平成10年からは10万余円の活動費が交付されている。香川自治会から3万円の助成を受け運営されている。

本会の開催に当たっては、毎回市の保健士による「血圧測定・健康講座」さらに手芸やボランティアによる歌や踊り、手品、楽器演奏といった楽しい内容になっています。

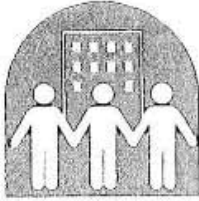
発足して10年目になる平成16年11月市社会福祉協議会長の感謝状を受賞することになった。現在は、毎回40人前後の集まりとなっている。

(長谷川 泉太郎)

(福祉マーク)



(気を楽にしてね)



(甘沼地域)

## 甘沼ふれあいの会 待ち遠しいふれあいの仲間

甘沼では、元湘北地区会長の故沼上伊次郎氏の時に自治会と民生委員や協力者が、一人暮らしの高齢者や体に障害を持つ人たちの集まりを始めた。

それを「ふれあいの会」と名付けた。平成10年代に入り、湘北各地に社協誕生の気運が出てきたので組織の改革を行った。ふれあいの会を活動団体の一つと位置づけ、民生委員の協力を得て活動の幅が広がるようにし、甘沼社会福祉協議会が発足した。

ふれあいの会は、毎月1回実施しています。現在は、約20名の人たちが30数名の高齢者や障害のある人たちのお相手をしています。参加費は昼食代として一人300円です。民生委員やその他ボランティアの人たちの長年にわたる研究のおかげで、その内容の良さが参加した人を喜ばせています。誰でもできるゲーム、絵を描いたり、人形を作ったり、みんなで歌える古い歌など合唱します。春に桜のお花見や、アヤメの花の咲く頃には、近くのお宅の花畑を見に野外にも出ます。それと何よりの楽しみは『手作りの昼食』です。陶器の器に盛った暖かい煮物やみそ汁など、心のこもった品々は、大勢の人と一緒に食べると何倍もおいしいようです。

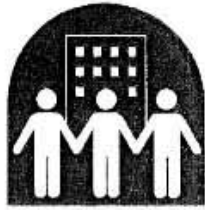
(小川 高男)



(福祉マーク)



(懐かしい歌の後は楽しい昼ご飯)



(鶴が台団地)

## 鶴が台評議員会の活動 楽しみながら

地区社協の誕生から間もなく湘北地区の小地域社協活動の基となった《お年寄りが気軽に歩いて出かけられる》鶴が台の“お年寄りのつどい”が月1回のペースで始まりました。団地の分派行動と当初批判も受けましたが、集会所の狭い和室に40人前後の方々が集まり1日を過ごし、今のようにサークルもなく、それぞれがお菓子やお昼を持ち寄りおしゃべりをするのがみんな楽しみでした。昭和63年発行の広報「はぐくみ」は今年25号となり内容も充実したものになりました。

平成5年、高齢者指定団地となり、高齢者や障害者が毎日利用できる「Eラウンジ」が常設され、“お年寄りのつどい”も翌年から年4回（お花見、七夕、保育園との交流会など）に惜しまれつつ縮小されました。平成6年には“わをひろげようたんぼぼの会”が年4回実施で始まり、中途障害者の励ましと交流の場となっています。Eラウンジ・シニアサロンは平成15年から自治会、鶴が台評議員会、ボランティアが共同運営でお茶・コーヒーのサービスを週5日行い、去年は2,900名の利用でした。

これらの事業は、地区社協・自治会の補助金と夏祭り『福祉の店』の収益で賄われており、祭りへの参加は評議員の惜しみない労力の提供と活躍に支えられていることに心より感謝するものです。

(南雲 恵子)



(福祉マーク)



「生きがいあるのはEラウンジのおかげね」





(松風台地域)

## 松風台地域社協の活動

ほっとサロンへようこそ

平成12年5月湘北地区社協の活動方針を受けて自治会単位で地域福祉活動を推進するため、福祉に携さわる団体・自治会役員・民生委員・有志の方々に参加いただき『松風台社協』が結成されました。

活動を進めるにあたり、活動方針、事業、組織を明確にした会則作りからスタートしました。議論を重ね、常にメンバーの話し合いの中から指針を決めています。今日までの主な活動は次のとおりです。

平成13年

松風台社協の基幹となる会則を新たに制定。生活支援サポート「こぶし会」発足。

平成14年

広報誌《松風台社協だより》創刊。茅ヶ崎市地区社協連絡協議会「事例発表」において松風台社協の活動状況を発表。

平成15年

自治会から「社協活動費」の交付を受ける。福祉講座開催「介護保険について」

平成16年

地区ボランティアセンター開設により、「こぶしの会」業務移管こぶしの会解散。福祉施設見学研修（24名参加）

平成17年

広報誌《松風台社協だより》を【ひだまり】と命名。松風台喫茶室“ほっとサロン”を開設。現在ふれあい活動では、「松の実会」ミニディサービス、“ほっとサロン”が柱になっています。有志の方の献身的な協力により毎回楽しく開催されています。高齢化の進む地域社会に向けて、社協の活動が一層期待される所です。

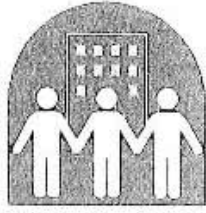
(宮本 忠郎)



(ようしボケないようがんばるぞ)



(福祉マーク)



(鶴が台一街区)

## 健康クラブ・リズムサロン 健康が一番です

鶴が台一街区の住民の大多数が昭和41年から移転就職で移り住んだ人です。入居当時若くて子供を生み、育て、無我夢中で働いてきました。私たちを取り

巻く情勢は、近い将来に高齢化社会が到来することは、知りつつも地域に湘北地区社会福祉協議会の存在もわかっていましたが、まだ私たちには、縁の無い年寄の集まりと思っていました。ふと我に還ってみたら自分も歳を取り、回りもやけに老人が多いな… そういえばあれだけいた子供たちが孫を連れて帰ってきている。

自治会集会所に行ってみたら、おばあさんたちがピンポンをしていた。ボケないように、いつまでも健康でいられるようにだつて。

日にちを替えて集会所の近くを通った。中から大きな笑い声が聞こえてきた。中に入ってみると5、6人の婦人がいた。自分たちでお茶買って、お茶菓子を持ち寄り「おしゃべり」したりカラオケやったり、何でと聞いたら歳をとらないようにだつて。ピンポンの仲間も、おしゃべりの仲間も自分たちの老後を考えているんだな自治会で呼びかけて、支え合う時がきたのかも知れない。二つのグループを大切に発展させていくようにボランティアさんになってがんばるか。

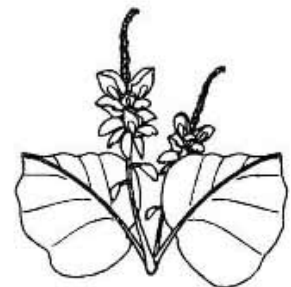
(竹ノ脇 賢歳)



(ききょう)



(福祉マーク)



(くず)

## 歴代役員と20年のあゆみ (1)

昭和61年度		
会 長	熊沢幸一	香川
	沼上伊次郎	甘沼
副会長	斉藤 実	鶴が台一
	青木有俱	鶴が台
	長谷川清久	松風台
書 記	石川ヨスエ	香川
	柳沢宗一	香川
会 計	岡崎房江	松風台

(昭和61年度)

昭和61年11月13日社協結成総会  
老人福祉対策を重点に活動がスタート

昭和61年10月1日機関誌「湘北」  
創刊号発行

(昭和62年度)

11月 谷戸地区視察研修  
12月 芹沢ホーム視察

昭和62年度		
会 長	熊沢幸一	香川
副会長	沼上伊次郎	甘沼
	斉藤 実	鶴が台一
	田中作治	鶴が台
	長谷川清久	松風台
事務局長	柳沢宗一	香川
会 計	岡崎房江	松風台

(昭和63年度)

健康講座 マッサージ、指圧について  
講師 佐藤正先生

11月講演会「高齢者対策と老人福祉」  
講師 市役所大八木氏、市社協戸倉氏

昭和63年度		
会 長	浜村高登	鶴が台
副会長	三木寿賀男	鶴が台一
	住吉義男	香川
	石川ヨスエ	香川
	長谷川清久	松風台
書 記	高橋 猛	香川
	沼上伊次郎	甘沼
会 計	鈴木アサ子	甘沼

(平成元年) 年号が平成となる

一人暮らし老人の「料理教室」開催 3回 9  
月小田原市社協との対話集会開催  
11月講演会「老人対策」  
講師 佐野英司先生  
11月研修会「子育てを大切に」  
講師 林 美先生

平成元年		
会 長	長谷川清久	松風台
副会長	石川ヨスエ	香川
	本城定吉	甘沼
	青木有俱	鶴が台
	斉藤 実	鶴が台一
事務局長	沼上伊次郎	甘沼
会 計	鈴木アサ子	甘沼

## 歴代の役員と20年のあゆみ (2)

平成2年度		
会 長	長谷川清久	松風台
副会長	石川ヨスエ	香川
	柿沢俊之	甘沼
	齊藤 実	鶴が台一
	青木有俱	鶴が台
事務局長	沼上伊次郎	甘沼
会 計	鈴木アサ子	甘沼

### (平成2年度)

一人暮らし老人の料理教室開催年4回  
 託老の集い毎月1回開催  
 6月横浜、横須賀社協との交流  
 8月研修会開催  
 11月公民館祭り協賛

### (平成3年度)

7月2日配食サービス始まる  
 託老の集い毎月1回開催「ほのぼのクラブ」  
 一人暮らし料理教室年4回開催  
 3月講演会高橋健一先生  
 上原美智子先生  
 10月公民館祭りへの協賛

平成3年度		
会 長	長谷川清久	松風台
副会長	熊沢幸一	香川
	柿沢俊之	甘沼
	青木有俱	鶴が台
	石川ヨスエ	香川
事務局長	沼上伊次郎	甘沼
会 計	鈴木アサ子	甘沼

### 平成4年度

会 長	長谷川清久	松風台
副会長	石川ヨスエ	香川
	柿沢俊之	甘沼
	青木有俱	鶴が台
	齊藤 実	鶴が台一
事務局長	沼上伊次郎	甘沼
会 計	鈴木アサ子	甘沼

### (平成4年度)

8月長谷川会長逝去合掌  
 会長は石川ヨスエ氏に移行  
 宅配給食毎週2回実施  
 ほのぼのクラブ毎月1回開催  
 8月施設見学 小田原潤生園  
 11月公民館祭りへの協賛

### (平成5年度)

宅配給食毎週2回実施  
 3月講演会「微生物と健康」  
 講師 茅ヶ崎保健所松崎 稔先生  
 料理教室年4回開催  
 ほのぼのクラブ毎月1回開催  
 2月ほのぼのクラブについて活動発表  
 県社会福祉会館に於いて

### 平成5年度

会 長	沼上伊次郎	甘沼
副会長	石川ヨスエ	香川
	沢俊之	甘沼
	青木有俱	鶴が台
	齊藤 実	鶴が台一
事務局長	三浦寛二	松風台
会 計	鈴木アサ子	甘沼

## 歴代役員と20年のあゆみ (3)

平成6年度		
会 長	沼上伊次郎	甘沼
副会長	石川ヨスエ	香川
	小川 功	甘沼
	青木有俱	鶴が台
	奥井昭志	松風台
	齊藤 実	鶴が台一
事務局長	三浦寛二	松風台
会 計	鈴木アサ子	甘沼

(平成6年度)

9月8日健康講座 講師市立病院  
副院長 河野清先生  
料理教室年4回開催  
ほのぼのクラブ毎月開催  
宅配給食事業毎週火曜、金曜実施  
老人会長との懇談会  
公民館まつりへの協賛

(平成7年度)

平成7年3月10日ほのぼのクラブ終了  
香川お楽しみ会、甘沼ふれあいの会、  
松風台松の実会に分かれる  
湘北地区社協創立10周年目  
料理教室年4回開催  
宅配給食事業実施  
公民館まつりへの協賛

平成7年度		
会 長	沼上伊次郎	甘沼
副会長	石川ヨスエ	香川
	青木有俱	鶴が台
	奥井昭志	松風台
	竹ノ脇賢蔵	鶴が台一
事務局長	三浦寛二	松風台
会 計	鈴木アサ子	甘沼

平成8年度		
会 長	沼上伊次郎	甘沼
副会長	石川唯男	甘沼
	石井静子	鶴が台
	森 潔	松風台
	竹ノ脇賢蔵	鶴が台一
	石川ヨスエ	香川
事務局長	青木有俱	鶴が台
会 計	鈴木アサ子	甘沼

(平成8年度)

宅配給食事業アンケート  
週2回希望21人 (63. 6%)  
週4回希望12人 (36. 4%)  
料理教室年4回開催  
公民館まつり協賛  
平成8年11月2日市社協から表  
彰される

平成9年度引き続き同様事業

平成9年度					
顧 問	沼上伊次郎	甘沼	副会長	石井静子	鶴が台
会 長	森 潔	松風台		竹ノ脇賢蔵	鶴が台一
副会長	熊澤藤俊	香川	事務局長	青木有俱	鶴が台
	小鍛治実	甘沼	会 計	鈴木アサ子	甘沼

沼上氏永年の役員経験者として顧問に就任

## 歴代役員と20年のあゆみ (4)

平成10年度		
会 長	森 潔	松風台
副会長	熊澤藤俊	香川
	小川高男	甘沼
	石井静子	鶴が台
	竹ノ脇賢蔵	鶴が台一
	伊藤文夫	ライトタウン
事務局長	青木有俱	鶴が台
会 計	鈴木アサ子	甘沼

(平成10年度)

ボランティア団体との交流活発  
 公民館祭り協賛  
 宅配給食事業  
 ライトタウン仲間入り

(平成11年度)

横須賀市空き教室利用状況  
 視察、研修  
 公民館祭り、福祉シンポジウム  
 10月11日から  
 鶴が台小学校空き教室開放  
 宅配給食事業

平成11年度		
会 長	森 潔	松風台
副会長	熊澤藤俊	香川
	小川高男	甘沼
	石井静子	鶴が台
	竹ノ脇賢蔵	鶴が台一
	田町 亨	ライトタウン
	福嶋信雄	松風台
事務局長	青木有俱	鶴が台
会 計	鈴木アサ子	甘沼

(平成12年度)

平成12年度		
会 長	森潔	松風台
(代表)	飯沼京子	鶴が台
副会長	熊澤藤俊	香川
	小川高男	甘沼
	竹ノ脇賢蔵	鶴が台一
	浅枝 陽	松風台
	坂巻龍馬	ライトタウン
務局長	青木有俱	鶴が台
計	鈴木アサ子	甘沼

宅配給食事業  
 公民館祭り  
 福祉シンポジウム  
 講師ふれあいの森石塚氏  
 横浜市洋光台コミュニティ  
 110番視察研修



(福祉マーク)

(なでしこ)



## 歴代役員と20年のあゆみ (5)

平成13年度		
会 長	森 潔	松風台
(代表)	飯沼京子	鶴が台
副会長	熊澤藤俊	香川
	篠原隆夫	甘沼
	竹ノ脇賢蔵	鶴が台一
	小山博美	松風台
	内野義男	ライトタウン
事務局長	青木有俱	鶴が台
会 計	鈴木アサ子	甘沼

(平成13年度)  
 配食は業者に制度改正で移行  
 協力員延べ2300人  
 協力員の方大変ご苦労様でした  
 健康講座「ずっと元気である為  
 に」  
 公民館まつり協賛  
 湘北地区社協創立15周年

(平成14年度)  
 オクトス湘南仲間入り  
 公民館まつり協賛  
 秦野市ふれあいプラザ視察研修  
 健康講座「骨粗しょう症」  
 講師 河野清先生

平成14年度		
会 長	森 潔	松風台
(代表)	南雲恵子	鶴が台
副会長	吉田弘司	香川
	北村正美	甘沼
	竹ノ脇賢蔵	鶴が台一
	河野 清	松風台
	岩本千鶴子	ライトタウン
	瀬戸雄二	オクトス湘南
事務局長	青木有俱	鶴が台
会 計	鈴木アサ子	甘沼

平成15年度		
会 長	森潔	松風台
(代表)	南雲恵子	鶴が台
副会長	吉田弘司	香川
	高瀬 浩	ライトタウン
	菊池幸男	甘沼
	関田兼司	オクトス湘南
	竹ノ脇賢蔵	鶴が台一
	有元佳子	松風台
	事務局長	青木有俱
会 計	鈴木アサ子	甘沼

(平成15年度)  
 公民館まつり協賛  
 15年9月地区ボランティア  
 センター発足事業開始  
 健康講座「心と身体の不思議な  
 関係」  
 講師 河野清先生

## 歴代役員と20年のあゆみ (6)

平成16年度		
会 長	森 潔	松風台
(代表)	南雲恵子	鶴が台
	中村五初男	香川
副会長	木戸考幸	ライトタウン
	杉山茂紀	甘沼
	若狭欣一	オクトス湘南
	佐藤徳郎	鶴が台一
	金光叡一	松風台
事務局長	青木有俱	鶴が台
会 計	鈴木アサ子	甘沼

(平成16年度)

公民館まつり協賛  
相模原市見守りシステム視察研修  
健康講座「いつまでも元気な頭と  
体でいたいから」  
講師 宮沢善夫先生

(平成17年度)

11月健康講座「口腔ケア」  
講師小倉洋一郎先生  
視察研修藤沢市こぶし荘  
公民館まつり  
3月健康講座「加齢に伴う」  
講師重藤真理子先生

平成17年度		
会 長	青木有俱	鶴が台
(代表)	南雲恵子	鶴が台
	黒沼光春	香川
副会長	杉山茂紀	甘沼
	佐藤徳郎	鶴が台一
	清水武正	松風台
	坂口 浩	オクトス湘南
	一柘晃伸	ライトタウン
事務局長	木戸考幸	ライトタウン
会 長	長谷川泉太郎	香川

平成18年度

会 長	青木有俱	鶴が台
(代表)	南雲恵子	鶴が台
	黒沼光春	香川
副会長	井波忠夫	甘沼
	竹ノ脇賢蔵	鶴が台一
	鎌田 忠	松風台
	土井逸子	ライトタウン
事務局長	杉山茂紀	甘沼
会 計	長谷川泉太郎	香川

(平成18年度)

湘北地区社協創立20周年  
記念誌発行  
オクトス湘南松林地区へ移籍  
公民館まつり協賛  
施設研修  
健康講座



(おみなえし)



## 湘北地区社会福祉協議会 会則

### (名称及び事務所)

- 第1条 本会は、湘北地区社会福祉協議会という。  
第2条 本会は、事務所を会長宅におく。

### (目的及び事業)

- 第3条 本会は、湘北地区における自治会、社会福祉事業関係者及び社会福祉に関心を持つ住民が相協力して、地区の福祉増進を図ることを目的とする。  
第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。  
1. 住民福祉の増進、住民の厚生に関すること。  
2. 社会福祉事業に対する啓蒙宣伝。  
3. その他目的達成に必要な事業。

### (会 員)

- 第5条 本会は、湘北地区の団体及び個人で、本会の会則に賛同した次の者で構成する。  
1. 自治会並びに社会福祉に関係ある団体。  
2. 湘北地区在住の住民。  
第6条 会員は、別に定めるところによって会費を納入する。

### (役員・理事・評議員・監事)

- 第7条 本会に次の役員及び理事・評議員をおく。  
1. 役員：会長1名、副会長若干名、事務局長1名、会計1名。  
2. 理事：若干名、評議員：若干名。  
第8条 本会に、監事2名をおく。  
第9条 役員及び理事・評議員の選出は次による。  
1. 役員は、理事の互選とし、総会で承認をえる。  
2. 理事は、各自治会代表者の他に、評議員のうちから若干名を選任する。  
3. 評議員は、加盟各団体から推薦された者とする。  
4. 監事は、評議員のうちから選任する。  
第10条 会長は、本会を代表し会務を統括する。  
2. 副会長は会長を補佐する。副会長の中から代表副会長1名を互選する。  
3. 会長及び副会長は、地区社協連絡協議会委員となる。会長事故ある時は代表副会長がその職務を代行する。  
4. 事務局長は、本会の事務を処理する。  
5. 会計は、本会の会計事務を処理する。  
6. 理事は、理事会を組織し、事業の執行を図る。

7. 評議員は、評議員会を組織し、事業の推進を図る。
  8. 監事は、会の会計を監査する。必要に応じ理事会・役員会に出席して意見を述べるができる。
- 第11条 本会に顧問をおくことができる。顧問は理事会の推薦により会長が委嘱する。
- 第12条 役員・理事・評議員・監事・顧問の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
2. 補充した役員の任期は、前任者の残任期間とする。

#### (会 議)

- 第13条 会議は、総会、役員会、理事会及び評議員会とする。
- 第14条 会議は、会長が招集する。
- 第15条 総会は、定期総会を年度初めに開き、臨時総会は、必要に応じて開くことができる。
2. 役員会・理事会及び評議委員会は、随時これを開く。
  3. 評議委員会を総会にかえることができる。
  4. 総会・理事会・評議員会の定足数は、過半数とする。
- 第16条 総会は、次の事項を審議・決定する。
1. 活動報告及び活動方針。
  2. 決算及び予算。
  3. 役員・監事及び理事の承認。
  4. 会則の改廃その他重要な事項。
- 第17条 会議の議決は、次による。
1. 役員会の議決は、全員一致による。
  2. 理事会・評議員会及び総会の議決は、議決権をもった出席者の過半数による。

#### (会 計)

- 第18条 会の経費は、会費、補助金、寄付金その他をもってこれにあてる。
- 第19条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

#### (雑 則)

- 第20条 本会則の施行に関し必要な規則は、会長が理事会に諮って別に定める題21条
- 付 則 昭和61年7月13日策定・施行  
平成元年5月18日改正・施行  
平成10年5月10日改正・施行

## 理事会運営規定 (2005.04.16)

### 1. 総会構成メンバーと総会での役割

- 1). 総会議案の作成及び提案は前年度理事会が行う。
- 2). 総会議案の審議・決定は新年度評議員及び新年度理事が行う。

### 2. 会費規定

- 1). 各自治会の年会費を、基本会費に世帯数に応じたものを加味して次のとおりとする。

香川自治会	29,000円
甘沼自治会	13,000
松風台自治会	8,000
鶴が台団地自治会	20,000
鶴が台(一)自治会	6,000
うたの茅ヶ崎自治会	2,000

- 2). その他の団体については団体の規模及び性格により、総会または、理事会に諮って個別に年会費を定める。
- 3). 個人会員の会費は、無料とする。

### 3. 理事・評議員の選出規定

- 1). 各自治会の理事定数は、2～7名の範囲とし、自治会の規模を考慮し決定する。但し理事の総数は、40名以下とする。
- 2). 各自治会の評議員定数は、2～15名の範囲とし、自治会の規模を考慮して決定する。但し評議員の総数は、50名以下とする。

地区社協

- 甘沼自治会 760世帯
- 香川自治会 2,793世帯
- 鶴が台(一)自治会 280世帯
- 鶴が台団地自治会 2,340世帯
- 松風台自治会 580世帯  
(アイウエオ順)

# 湘北

## 創刊号

61.10.1

湘北地区社会福祉協議会

会長 熊沢幸一

印刷所 協スエカネ印刷

### 福祉を追う湘北地区

会長 熊沢幸一



物の豊かさから、心の豊かさへと価値観が移行する中で、市内十一地区の最後の発足ではありましたが、湘北地区社会福祉協議会が七月十三日結成され初代会長に就任いたしました。これまでに二年余の準備経過があり、地域づくり運営委員会に於ても種々協議され、一方、各自自治会からの選任委員により準備委員会で検討を重ねられ、福祉についての勉強をし、このたび結成の運びとなりました。

ご存知のように、当湘北地区は農住地区であり、体質の違いもあって、市内十一地区の最後の発足ではありましたが、湘北地区社会福祉協議会が七月十三日結成され初代会長に就任いたしました。これまでに二年余の準備経過があり、地域づくり運営委員会に於ても種々協議され、一方、各自自治会からの選任委員により準備委員会で検討を重ねられ、福祉についての勉強をし、このたび結成の運びとなりました。



### 発足によせて

社会福祉法人 茅ヶ崎市 社会福祉協議会会長 根本康明

湘北地区社会福祉協議会の誕生を心からお喜び申しあげ、あわせて結成にたずさわってこられた人々のご努力に敬意を表します。ご存知のとおり、地区社協に期待されている活動の一つには、地域の福祉風土づくり、福祉理解の促進を目的とした「啓発的活動」や、福祉問題をもつ人々(障害者

老人などの当事者や家族)への具体的な援助・サービス活動等があります。当事者の人が、地域の中でひとりの人として、あたりまえに暮らしていくことができるためには、生活上のハンディキャップ(障害)が誰かの手で補完されること、地域の人々との対等な関係がもて

助の主役は私達役員であり、地域の皆様方でもあります。若年期の一つの段階に達しておられる方々に奉仕活動を行うことは、我が身に返る相互互助の精神につながることであり、私達世代の務めとも考えたいものであります。湘北地区は全地域こそって福祉に手をさしよのべ、明るい、豊かな地域へと努力していききたいと念願しております。

### 結成までの経過

昭和六十一年十一月「地区社協」設立のため、準備委員会が設けられ、結成にむけて本格的な行動が始まりました。委員には、運営委員会の委員の他に、各地区の有識者の方々にも参加していただき、香川の青木幹夫氏が委員長に就任され、種々ご検討をいただき、会則・役員構成等も決定し、六十一年三月、運営委員会に答申されました。運営委員会では、それを受けて役員(理事・評議員)の選任に入り、第二回運営委員会に於て理事候補者に出席を求め、役員を選出を行い、直ちに結成総会への進め方について協議が行われました。そして設立の目標を七月と定め、設立総会への準備に入り、総会の議事、進行等の打合せも終り、予定通り七月十三日、市社会福祉協議会会長の根本市長、並びに事務局長の出席をいただき、鶴が台集会所に於て、「湘北地区社協」の設立総会が行われました。地域の社会福祉活動をよりよく進めるため、地域の皆様の暖かいご協力を賜りますようお願い申し上げます。

湘北地区地域づくり運営委員会 事務局長 石嶋一男

齊藤副会長



沼上副会長



長谷川副会長



青木副会長



### 役員名簿

役職	氏名	
会長	熊沢 幸一	
副会長	沼上 伊次郎	
	齊藤 実	
	青木 有俱	
	長谷川 清久	
書記	石川 ヨスエ	
	柳沢 宗一	
会計	岡崎 房江	
	柳沢 邦次	
理事	阿部 昉 勲	
	高橋 猛	
	大松 春子	
	石井 静子	
	三浦 茂二	
	評議員	熊沢 源太郎
		熊沢 繁子
		熊沢 英子
		北村 正英
		志賀 伴子
		沼上 忠勇
		青山 淳子
		石亀 トシ子
		岩片 真美子
		大森 真知子
糠田 厚子		
熊沢 セツ子		
長島 久江		
竹野 勝賢蔵		
伊藤 綾子		
飯沼 京子		
串山 松子		
近藤 伸子		
林 透美		
山岸 二郎		
吉野 美代子		
吉村 薫		
渡辺 やすえ		
池上 升也		
倉品 紀子		
五味 和子		
吉川 恭子		
三木 寿賀雄		
監査役	篠島 悦子	

## 基本方針

1. 湘北地区社教が各地域に浸透するように、新聞を発行する。
  1. 自治会単位で活動目標を提出し、よいものから行動に移す。
  1. 資料・見学等諸手段を用いて、福祉とは何か、ということから勉強し、知識を身につけて行く。
  1. 障害児者、老人、母子家庭、父子家庭が優先される。
  1. 会費、寄附金等を基金とする。
- 尚、今年度は老人対策に重点を置いて行きたいと考えています。  
(順不同)

## 湘北地区社会福祉協議会会則

- (名称及び事務所)  
第1条 本会は、湘北地区社会福祉協議会という。  
第2条 本会は、事務所を会長宅におく。
- (目的及び事業)  
第3条 本会は、湘北地区における自治会、社会福祉事業関係者及び社会福祉に関心を持つ住民が相協力して、地区の福祉増進を図ることを目的とする。  
第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。  
1. 住民福祉の増進、住民の厚生に関すること。  
2. 社会福祉事業に対する啓蒙宣伝。  
3. その他目的達成に必要な事業。
- (会 員)  
第5条 本会は、湘北地区の団体及び個人で、本会の会則に賛同した次の者で構成する。  
1. 自治会並びに社会福祉に關係ある団体。  
2. 湘北地区在住の住民。  
第6条 会員は、別に定めるところによって会費を納入する。
- (役員及び選出)  
第7条 本会に次の役員をおく。  
会長1名、副会長4名、書記2名、会計1名、理事若干名、評議員若干名とする。  
第8条 会計監査2名をおく。  
第9条 役員は次の選出による。  
1. 会長、副会長は理事の互選とし、書記、会計は理事会の推せんによる。  
2. 理事は、各自治会代表者の他に、評議員のうちから若干名選任する。  
3. 評議員は、加盟各団体から推せんされた者とする。  
4. 会計監査は、評議員のうちから選任する。  
第10条 会長は、本会を代表し会務を統括する。  
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。  
3. 理事は理事会を組織し、事業の執行を図る。  
4. 評議員は評議員会を組織し、事業の推進を図る。  
5. 書記は会の事務を処理する。  
6. 会計は会の会計事務を処理する。  
7. 会計監査は会の会計を監査する。  
第11条 役員は任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。  
2. 補充により、就任した役員は前任者の残任期間とする。  
第12条 本会に顧問をおくことができる。顧問は理事会の推薦により会長が委嘱する。
- (会 議)  
第13条 会議は総会、理事会及び評議員会とする。  
第14条 会議は会長が招集し、その議長となる。  
第15条 総会は、定時総会を年1回年度初めに開き、臨時総会は必要に応じて開くことができる。理事会及び評議員会は随時これを開く。  
2. 評議員会を総会にかえることができる。  
3. 総会は、評議員の過半数の出席をもって成立する。  
第16条 総会は次の事項を審議する。  
1. 決算及び予算。  
2. 活動報告及び活動方針。  
3. 役員承認。  
4. その他。  
第17条 会議の議決は次による。  
1. 理事会の議決は、全員一致による。  
2. 評議員会及び総会の議決は、出席者の過半数による。
- (会 計)  
第18条 会の経費は会費、補助金、寄附金その他をもってこれにあてる。  
第19条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。
- (雑 則)  
第20条 本会則の施行に関し必要な規則は、会長が理事会に諮って別に定める。  
第21条 本会の会則は、総会の議決により変更することができる。
- 附 則  
この会則は、昭和61年7月13日から施行する。

### 編集後記

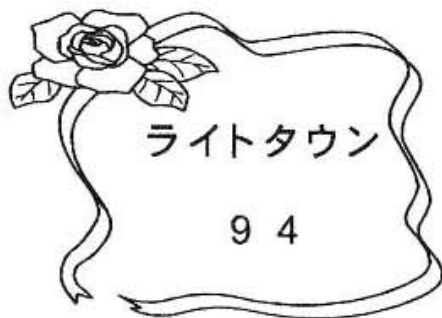
湘北地区にも地区社協が発足し、やっと新聞発行の運びとなりました。まだ出発点に立つたばかりですが、この活動が地に根付き、大きく発展させるためには、ボランティアの方々が、地域の皆様方のご協力が必要です。

皆様のご提案、ご要望をお近くの役員までお寄せ頂きたいと思っています。

#### 編集委員

大森・青山・池上・志賀・近藤・竹野





湘

北

地

区



帯



世

数



で

見



る

概



季

平成 18 年 10 月 1 日 現在

# 湘北地区にはこんなサロンが活動しています

## 皆さんの気軽においでください

リズムサロン	健康クラブ	水曜サロン	とろっこ	湘北 ともものわ	香川	ポランティア	シニアサロン	Eラウンジ	たんぼほの会	サロン	すこやか	ほっとサロン	松の実会	の会	甘沼ふれあいの会	み会	香川おたのしみ会	サロン名
ボランティア	ボランティア	ボランティア	ボランティア	ボランティア	ボランティア	ボランティア	評議員会	鶴が台	評議員会	鶴が台	評議員会	地域社協	地域社協	地域社協	地域社協	地域社協	地域社協	実施主体
高齢者	高齢者	どなたでも	どなたでも	高齢・障害者 虚弱者			障害者	高齢者	中途障害者	高齢者	障害者	障害者	障害者	障害者	高齢者	高齢者	70才以上 独居	利用対象
五百円	千円	五十円	二百円	五百円	千五百円	年会費	0円	0円	0円	五百円	五十円	三百円	三百円	三百円	三百円	四百円		料金経費
週1回	週2回	週1回	週3回	月1回	月3回	月3回	週5回	年4回	年4回	年4回	月2回	月1回	月1回	月1回	月1回	年5回		開催





## 編 集 後 記

湘北地区社会福祉協議会は今年で創立20周年を迎えました。平成18年度の定期総会で「20周年記念誌」を発行することが決まったのが五月晴れの日でした。“無”から始まった編集委員会、もちろん素人の集団です。湘北地区に在住の大先輩を訪ね原稿依頼で夏の盛りが終る頃になり、何となく先が見えたかな…というそんな中、5年間続いた首相在任が二番目の長期政権にピリオドを打ち日本に戦後生まれの総理が誕生した。首相が中国に挨拶回りしている頃、北朝鮮の国が核実験を行った。予感があったとはいえ驚いた後、怒りが燃えてきたのは私だけでしょうか。平和なところしか福祉は繁栄しない。そう思いながら原稿が届くのを待った。

この記念誌の中に「福祉」に関するマークを載せてみた。もちろん道交法のようにきちんと決められたものではないかも知れませんが、あなた何個わかりましたか。全部わかった人は、“福祉博士”でしょう。記念誌作りがピークに達する頃十五夜の月明かりで編集会議。遊び心で「秋の七草」を載せました。この記念誌を開きますと、社協に関わってくださった、たくさんの方々の想いが伝わってくると思います。本誌に快くご寄稿くださった方々にお礼申し上げ、感謝の気持ちをここに表したいと思います。

貴重な足跡を内容豊富にと努力致しましたが未充足の部分はどうぞご指摘くださいますようお願いいたします。

なお、本記念誌の表紙を飾る題字は、黒沼光春さんをお願いしました。

平成18年12月吉日

編集委員 青木有俱、清水武正、杉山茂紀、重石朋子、竹ノ脇賢蔵

湘北地区社会福祉協議会	
20周年記念誌	
発行日	平成18年12月1日
発行者	湘北地区社会福祉協議会
製本	(有) 仲手川印刷
昭和61年11月13日から平成18年11月30日まで	